

## 長岡税務署長賞

### 税の意義と役割

新潟県立長岡高等学校

二年 藤原 想花

私の周りでは、今、新型コロナウイルスのワクチン接種についての話題で溢れている。ワクチンは無料で接種できるが、その費用は税金からきている。新型コロナウイルス関連でいうと、PCR検査、特別定額給付金、療養費、GOTOトラベルキャンペーンなどに多額の税金が使われている。自治体が検査を委託する医療機関や保健所で検査が必要と判断された人、濃厚接触者と認定された人などのPCR検査費用や入院費用は公費負担のため、自己負担をする必要はない。これらはすべて、私たちが納めている税金からきている。

このコロナ禍の中でも毎日の生活がコロナ禍以前の生活の状態に近付いていっているのは、国が税金を使って様々な対策を行ってくれているおかげだと思う。

しかし私はふと思った。特別給付金として国民全員が一人十万円ずつもらえたが、なぜ私たちが納めた税金をわざわざ一人十万円ずつという国民全員に同額を返すのかと。それな

ら税金の量を減らした方が良いのではないかと。そんな時に学校の現代社会の授業でインフレーションやデフレーションのことを学び、新型コロナウイルスの影響で経済が落ち込んでいて、十万円を給付することで個々の消費が増え、経済を復活させようと試んでいたのだと考えた。

税金を納めることに後ろ向きな人、税金の使われ方に不満を持っている人は少なくないように感じる。しかし、私たち、特に学生は税金があることによって国から様々なことが負担され、幸せな生活を送ることができている。全日制の高校生は、約百万円、年間の教育費を税金で負担してもらっている。

ごく当たり前に送っている学校生活だが、毎日学校で学べる環境が整っているのは、税金の支えがあつてこそそのものだ。

もしも税金がなかったら……。費用を気にせず一〇番や一一九番に電話できなくなる。子供たちが安心して学校で学べなくなる。安全に道路や橋を通行することができなくなる。災害時に助けが来なくなる。……。いかに私たちが納めている税金によって安心、安全が保障されているかがよく分かった。自分の納めた税金が誰かの役に立ち、誰かの納めた税金が自分の助けに繋がっている。そう考えると税を納めることに嬉しさを感じるだろう。このコロナ禍の中、助け合い、支えあいによって生活ができています。誰かの納税によって勉強することができていることに喜びを感じ、勉学に励むという形で応え、少しでも社会に貢献できる人になる。

## 長岡税務署長賞

## 税が託す未来

新潟県立長岡大手高等学校

三年 大野 心緒

高校進学を考えていた時、できれば公立高校にしてほしいと母に言われた。理由を聞くとうちにはお金がないからとのことだった。家に負担をかけるのは嫌だったから必死に勉強をしてなんとか公立高校に入れた。

しかし国や地方公共団体が公立の高校生一人あたり一年間の教育費に百万円も負担していることを知り、衝撃を受けた。私は学費を親にあまり負担をさせずにいると思っていたが、そのお金は消えたわけではなく国や地方公共団体が負担してくれているのだ。しかも百万円も。自分の知らないところで普通に高校に通っているだけに百万円が動いている。さらに小学生一人あたり八十八万円、中学生一人あたり百五万円を負担していることが分かった。つまり高校生に限らず子供の頃から国や地方公共団体に支えられて学校生活を送っているのだ。今まで私が負担しなくて良かった分は税金でまかなわれていることは知っていたが、改めて数字で出されると戸惑ってしまう。

そして強い責任感を持たなければいけないという気持ちと

未来への希望を感じた。毎年国債が増えているのにも関わらず、将来世代の負担とならないように様々な努力をしている。またこの状況で私達に多額の融資もしている。つまりこの国や世界の未来を私達に託しているということではないかと感じた。

二〇二一年、地球には様々な問題がある。それは今すぐ解決するのは難しい。しかし次の世代の人との間で新しく何かを始めたり、少しずつでも何かを変えることでいつか解決できる。やり遂げることができる。国が税金を私達に使うことで未来を託している。もちろん解決するのは簡単なことではないが、自分は今、未来を託されているという誇りを胸にやらなければいけない勉強や部活を必死に頑張ることが大切だと感じた。

また私の住んでいる長岡でも小林虎三郎という、未来を次の世代に託した偉人がいた。戊辰戦争で敗戦後、焼け野原となり、困窮していた三根山藩から米百俵が見舞いとして送られてきた。藩士たちはこれを食べようと喜んだが、藩の大惨事小林虎三郎はこの百俵の米を売って、書籍や器具の費用にした。辛い中、目先のことだけを考えず、未来のために行動しているところが今の日本と似ていると感じた。米百俵で建てられた国漢学校の新校舎によって後の新しい日本を背負っていく人物が多く生まれた。つまり今の日本を新しく生まれ変える人が生まれるということなのではないかと思う。

たまに学校を休みたい日や何もしたくない時もあるが国が未来のために私達を応援しているのだと思うと、背中を押されたような気がして、頑張れる気がしている。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

妹へ

新潟県立長岡高等学校

二年 梅澤 りん

妹へ。

あなたが生まれた時、私たち家族は本当に嬉しかったよ。あなたの病気が見つかった時は家族で泣いたんだよ。病院の先生方のおかげで発育に遅れもなく成長できた事を忘れないでいて欲しいと思います。あなたと一緒に学校へ行ける事、笑ったり話したりできる事がすごく嬉しいよ。

私たち未成年者は、医療費や学問に関してなどが国からの支援で助けられることがたくさんあるんだよ。これって何でだと思う？あなたに知って色んな事を考えて欲しい。

私たちは、お腹の中にいる時から今日までに直接関わってくれた大人だけじゃなく、日本中の人が納税という形で私たちに支援してくれている。あなたの「生物学者になりたい」という将来の夢の実現に期待を込め、納税で支援してくれている。私たちが成長する姿に願いを込め、納税で支援してくれている。だからね、私たちはその支援に恩返しをしないとイケないと思うの。今私たちができる恩返しは、しっかりと勉強して成長することだと思う。そしてお小遣いで買う品物で

納税できる消費税。消費税は、今の私たちにできる納税という形の支援であり恩返しだと思う。

そして、将来仕事に就いたら、しっかり大人への恩返しをし、これから生まれてくる子どもたちに支援をするべきだと思う。だって私たちが幸せに生活できているのは、支援してくれた大人のおかげだと思うから。それに、私たちと同様に小さな子どもにも幸せに生活して欲しいと思うでしょ？だから、感謝を忘れずに毎日を過ごそうね。

りんより。

私には四つ下の妹がいます。妹は新生児マスクリーニング検査で先天性甲状腺ホルモン低下症が見つかりました。早期の治療開始のおかげで、発達の遅れもなく無事に十三歳を迎えました。この検査を国でして頂かなければ、病気は見逃されていたと思います。母は定期的な通院も、医療費助成があるから助かっていると話します。もし、検査にかかる費用や医療費にためらって治療開始が遅れていたら、今の私たち家族はこんなに笑って幸せに生活できていなかったかもしれせん。

今回、この作文を書くにあたり、注射や投薬治療、食事制限を嫌がり駄々をこねる妹に、たくさんの人のおかげで医療を受けれていること、今までの成長と笑顔で生活できていることに感謝して欲しく、妹に読んでもらうために手紙という形にしました。

そして、私も高校生として、授業料を無償化してくれた意味をはかり、勤勉に励み、将来は納税で恩を返し、また日本への支援をしていきたいと思えます。

## 長岡税務署管内税務団体連絡協議会 会長賞 優秀

# 税で見えた人との繋がりがり

新潟県立長岡大手高等学校

三年 久保 七晴

私が税について考えるようになったのは、コロナ禍の厳しい社会状況を目の当たりにした事がきっかけだった。

2020年4月7日、新型コロナウイルスに対する、初の緊急事態宣言が発表された。同月の16日、緊急事態宣言は全国に適応されることになった。この宣言によって、飲食店は時短要請を余儀なくされた。また、不要不急の外出を控えるように自粛要請も発表され、私たちの生活が、社会全体が落ち込んだ雰囲気となった。「このままでは生活することができない。」このような言葉を何度も耳にした。現在の社会状況を少しでも打破するために、様々な財政措置が行われた。そして、政策には税金が使用されている。

税金の大部分は、社会保障や地方交付税のために使用されている。コロナウイルスに関する措置としては、飲食店には持続化給付金、家賃支援給付金、時短要請協力金や、雇用調整助成金などが支給された。国民には、一律の給付金が支給された。特に私は、給付金の恩恵を感じた。社会の経済力

の低下に伴い企業の業績も低下した。両親の会社も例外ではなく、危機の煽りを受け、休業もし、収入も減少した。このような状況の中で給付金を受け取ることができ、生活の助けにすることができた。受け取った際に私が思ったことは、「このお金は誰かが支払ってくれたものだ。」という感謝の思いだった。今までは税金の使われ方を意識した事はほとんど無かったが、今回の出来事で税に、そして、税金を払っている人々に支えられていることを実感した。

また、私たち高校生も直接税を払っているのではないが、消費税や間接税という形で税金を支払っている立派な納税者である。私が払った税金も誰かの元に届いている。誰かを助けることができている。支えられているだけでなく、巡り巡って誰かを支えている。厳しい社会状況の中で、税金を通して、人と人の繋がりが感じることが出来た。

税と聞くと、支払うことに対してマイナスに捉えてしまう人が多いと思う。実際私もそのうちの一人だった。しかし、税を支払うことで身近な人を、見知らぬ誰かを支えていると考えると、前向きに捉えることができるのではないだろうか。もう少しで私も税を納める年齢になる。実感した人との繋がりと感謝の思いを忘れずに、より良い社会にするために、しっかりと税を払っていききたいと思う。